

**令和3年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和3年12月
海老名市立今泉小学校**

令和3年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

(1)教科に関する調査(国語, 算数・数学)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査 (例)調査教科への興味・関心、読書時間、勉強時間の状況、ICT機器の使用状況、生活習慣 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

令和3年5月27日(木)



小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるかどうかをみる。
- ・資料を用いた目的を理解することができるかどうかをみる。
- ・目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるかどうかをみる。
- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができるかどうかをみる。
- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかをみる。
- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる。
- ・自分の主張が伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。
- ・目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
- ・文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる。
- ・文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 正答率は全体的に全国平均を上回っており、特に本文についての正しい説明を選択する問題は正答率が高い傾向にある。
- スピーチ資料の作り方に関する問題では、資料と原稿を見比べながら、適切な資料や表現を選択することができる。
- 思考に関わる語句の使い方(本文の「より」の使い方)に関する問題では、文章の中での語句の役割を理解し、正答率が9割を超えている。

◆課題のある点

- 漢字を文の中で正しく使って書き直す問題や、語句の関係や役割が理解できているかを調べる問題では、県や全国の平均を下回っている。
- 本文から必要な情報を抽出し、特定の説明を引用して文章（50字～80字）を書く問題では、条件を満たしていない児童が4割を超えている。
- 文章読解の問題では、図があると理解の助けとなるが、長い文章のみでは要点や全体構成などをとらえる力に課題がある。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 漢字の読み書きについては、漢字練習に丁寧に取り組ませるとともに、日常的に文章の中で適切に使うよう意識させていく。
- 説明文の学習では、全体の構成をとらえ、事実と考えを区別しながら読み取り、内容を理解させていく。
- 学級での話し合い活動などを通して、一人ひとりが自分の意見を持つ習慣をつけ、根拠を示しながら意見をまとめて書いたり、述べたりする機会を積極的に設けていく。
- 自由作文や書き抜き問題だけでなく、文章の要点や相手の主張を的確にとらえ、言葉を補いながらまとまりを意識して書く活動を取り入れていく。

小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・問題場面から、必要な数量を選択し、事柄や関係を数学的に表現・処理することができるかどうかをみる。
- ・伴って変わる二つの数量の関係について考察できるかどうかをみる。
- ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解しているかどうかをみる。
- ・日常生活に必要な時刻を求めることができるかどうかをみる。
- ・基本図形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる。
- ・量の基本的な性質について理解しているかどうかをみる。
- ・図形の計量について、図形を構成する要素などに着目して捉え、筋道を立てて記述できるかどうかをみる。
- ・棒グラフから、データの特徴や傾向を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・データを二つの観点から分類整理し、表に表したり読み取ったりすることができるかどうかをみる。
- ・帯グラフから、複数のデータについての項目の割合を比較し、データの特徴を捉え、表現することができるかどうかをみる。
- ・設定した問題に対して集めるべきデータを判断することができるかどうかをみる。
- ・除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができるかどうかをみる。
- ・除法の意味について理解しているかどうかをみる。
- ・小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解し、考え表現することができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- ほとんどの問題で、正答率は県や全国の平均を上回っている。
- 日常の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理する問題や、小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解し考え表現する問題の正答率は、県や全国の平均を10ポイント以上上回っている。

◆課題のある点

- 直角三角形の面積を求める式と答えを書く問題では、正答率が全国平均を下回っていた。三角形の底辺と高さの関係の理解が不十分なため、示された全ての辺の長さに着目して立式しており、必要な長さを選び出すことに課題がある。
- 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を書く問題の正答率は、県や全国の平均をやや上回るものの、2割程度の児童が平行四辺形の高さの求め方を誤って理解している。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 三角形、平行四辺形などの図形領域の学習において、高さは、図形を構成している辺ではないため、戸惑う児童も多い。そのため、等積変形といった操作活動を通して、底辺と高さの関係の理解を確実にしていく。また、求積のために必要な長さを選び出せるよう指導していく。
- 図、言葉、数、式などを用いて考えたり説明したりするとともに、互いに自分の考えを表現したり伝え合ったりする学習活動をこれからも積極的に取り入れていく。

児童質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

- 自分で家庭学習の計画を立てて勉強していると答えた児童の割合が高い。(81.4%)
- 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるかと答えた児童の割合が高い。(83.2%)
- 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができるかと答えた児童の割合が高い。(80.6%)
- 5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていると答えた児童の割合が高い。(80.5%)

◆本校の課題と思われるところ

- 国語の勉強が好きと答えた児童の割合が、算数の勉強が好きと答えた児童の割合より20%以上低い。(国語 54.0%、算数 74.4%)
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると答えた児童の割合は、全国平均を上回っているものの、本校の校内研究や目指す児童像を踏まえると、低いと考えられる。(74.3%)

生活について

◆本校のよかったところ

- 自分には、よいところがあると思っていると答えた児童の割合が高い。(82.3%)
- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると答えた児童の割合が高い。(85.8%)
- 友達と協力するのは楽しいと答えた児童の割合が高い。(93.8%)
- 人が困っているときは進んで助けたり、人の役に立つ人間になりたいと思ったりしていると答えた児童の割合が高い。(人を助ける 93.0%、役に立つ人間になりたい 97.4%)
- 将来の夢や目標を持っていると答えた児童の割合が高い。(80.5%)
- 普段、1日当たり2時間以上、テレビゲーム(コンピュータゲーム、スマートフォンを使ったゲームも含む)をする割合は、県や全国の平均に比べ低い。(43.4%)

今後の具体的な取組について

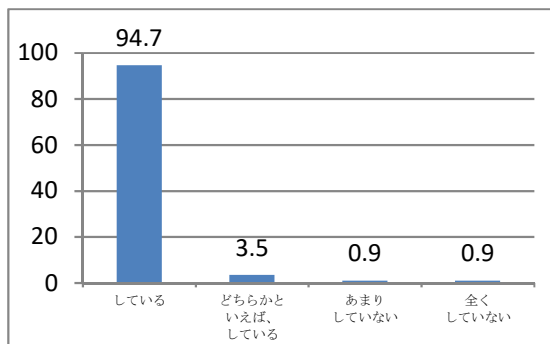
- 「ふり返りの時間」を取り入れ、子どもたち自身がどのように学び、何を感じたのかを引き出すことで、その学んだ知識を実生活や次の学習に生かしていけるよう取り組んできた。今後、児童が学習のよさや楽しさを感じることができるよう、音読劇や役割演技等、友達との協同的な学習を適宜取り入れていく。また、児童が活字を読むことや情報媒体を身近に感じられるよう、児童の実態に応じて学習に取り入れたり、読書活動の充実を図ったりしていく。
- 前向きな言葉がけや児童の活動を肯定的に認めていくことで、自分や友達のよさに気づき、児童の自己肯定感が高まるような授業づくりや学級づくりを目指してきた。今後は、生活科や総合的な学習の時間等で、地域との交流を充実させ、地域のよさ・地域への愛着を今まで以上に児童全体に広げていく。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

1 規則正しい生活を続けていきましょう。

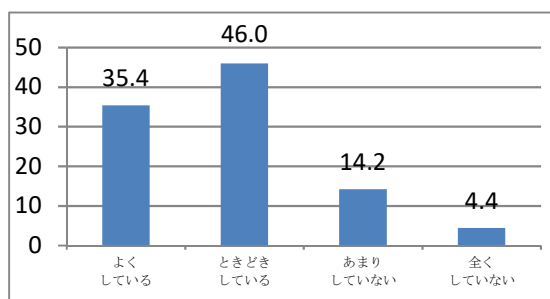
毎日、朝ご飯を食べることで活動や学習のための体の準備ができ、これは生活全体のリズムを保つうえでも大切なことです。これからも、家族みんなで協力し合いましょう。



朝食を毎日食べていますか

2 子どもたち自身で考える習慣をつけましょう。

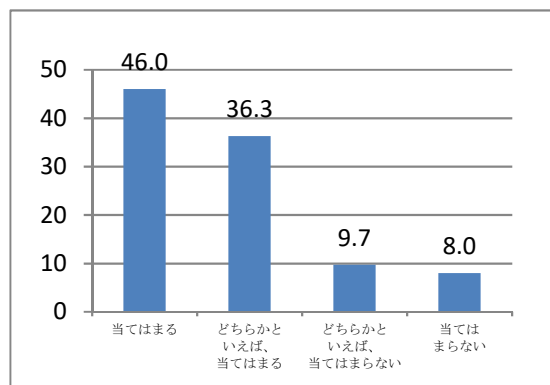
これからの時代は、子どもたち自身が考えたり、学び方を調整したりする力が大切です。子どもたちの決めたことを認め、支えていきましょう。



家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
(学校の授業の予習や復習を含みます)

3 よいところや得意なことを認め、伸ばしていきましょう。

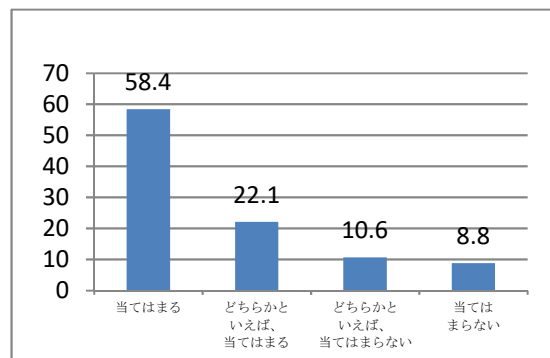
今泉小学校の児童は、自分にはよいところがあると思っている児童が多く、これは、たいへんすばらしいことです。できるようになったことやがんばりを認めることで、自己肯定感が高まり、自信を持って行動できるようになります。



自分には、よいところがあると思いますか

4 お子さんと夢や目標について語り合いましょう。

今泉小学校の児童は、夢や目標を持っている児童が多かったです。夢や目標を明確に設定することで、生活を改善する力や学ぶ力が高まります。



将来の夢や目標を持っていますか

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【主体的・対話的で深い学び】

- ・学習した内容を見直し、次の学習につなげている
- ・自分の考えが伝わるように工夫して発表している
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

【学級活動、道徳】

- ・学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決している
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりしている

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日摂る
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る
- ・コンピュータやスマートフォン等でゲームをする時間が短い

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で学習計画を立てて学習をする
- ・家に本が多くある

【自尊感情・規範意識】

- ・自分には、よいところがあると思う
- ・自分でやると決めたことはやり遂げる

結果の公表にあたって

○公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

○公表することによって、保護者や市民の皆様にも市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

○「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

